

令和6年度第2回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) その他
日時	令和6年10月10日(木) 午後7時00分 開会 午後7時30分 閉会
場所	茅ヶ崎市立病院 別棟会議室
出欠席者氏名	(出席) 高山慶一郎委員長、長岡健介委員、山口哲也委員、横山大樹委員、大木教久委員、大久保敦子委員、勝山貴美子委員、廣瀬俊之委員 (欠席) 下里隆史副委員長、濱卓至委員 事務局(中沢病院事業管理者、藤浪病院長、栗山副院長、岩澤副院長兼事務局長、益原診療部長兼患者支援センター所長、中戸川診療部長、山岡看護部長、平山患者支援センター担当長、岡野がん相談専従看護師、高橋医事課主査)
資料	・ 地域医療支援委員会次第 1 患者支援センターの業務実績について(令和6年4月から6月実績) ・ 紹介率・逆紹介率 (資料1-1) ・ 診療科別紹介率・逆紹介率 (資料1-2) ・ 茅ヶ崎市立病院 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 (資料1-3) ・ 予約検査実績 (資料1-4) ・ 相談日誌(延件数) (資料1-5) ・ 地域医療機関と連携した研修会等実績 (資料1-6) ・ 登録医救急診察専用回線による紹介患者集計表 (資料1-7) 2 がん相談支援センターの業務実績について(令和6年4月から6月実績) ・ がん相談支援センター実績報告 (資料2) 3 救急搬送状況について(令和6年4月から6月実績) ・ 病院別救急車搬送件数の状況(茅ヶ崎市消防) (資料3-1) - 科別救急車搬送件数の状況 ・ 茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況(行政地区別) (資料3-2)
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0名

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

定刻となりましたので、令和6年度第2回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開会いたします。本日は、皆様お忙しいところお集りいただき、ありがとうございます。

本日の司会進行を務めます、患者支援センターの益原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員10名に対し、本日は6名（※）の委員に出席いただいております、茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会規則第5条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

（※）のちに2名追加で出席いただき、合計8名の委員が出席となった。

それでは、開会にあたり中沢病院事業管理者よりご挨拶申し上げます。

●事務局（中沢病院事業管理者）

皆さんこんばんは、茅ヶ崎市病院事業管理者の中沢でございます。

本日は大変お忙しいところ、今年度2回目の地域医療支援委員会に出席いただきまして誠にありがとうございます。

日頃より皆様方には運営にご協力とご理解賜り、心から感謝申し上げます。早いもので今年度の6か月、半年が過ぎたところでございます。

昨年度更新した放射線治療機器や新規に導入した手術支援ロボットも順調に件数を伸ばすとともに、ご心配をおかけしていました脳神経外科も、この4月から医師が1名確保でき、入院や手術にも少しずつ対応しているところでございます。

また、昨年度開設いたしました脊椎センター、人工関節センターにおきましても、おかげさまで順調に患者数を伸ばし、整形外科全体の患者の件数も月平均90を超えており、昨年が大体70件くらいでしたので、大きく上回っているところでございます。本日は、6月までの第1四半期の患者支援センターとがん相談支援センターの実績とともに、救急搬送件数など地域医療支援病院としての業務遂行状況についてご報告申し上げ、ご意見をいただくことにしております。

どうぞ忌憚のないご意見いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

ありがとうございました。

それでは、議題に入らせていただきます。これより先の議事進行につきましては高山委員長にお願いいたします。

高山委員長、よろしくお願いいたします。

○高山委員

茅ヶ崎医師会の高山です。円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは議題に移ります。まず、議題（1）の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

●事務局（平山担当長）

令和6年4月から6月の患者支援センター業務実績について説明させていただきます。患者支援センターの平山です。よろしくお願いいたします。

資料１－１をご覧ください。令和６年度紹介率・逆紹介率の表です。４月から６月の紹介率の平均は 74.3%、逆紹介率の平均は 105.2%です。令和５年度と比較して紹介率は 4.4 ポイント増加、逆紹介率は 6.3 ポイント増加しています。下段にあります地域医療支援病院の承認要件②の紹介率 65 %以上・逆紹介率 40%以上を満たしています。

資料１－２をご覧ください。令和６年６月と４月から６月累計の診療科別紹介率・逆紹介率の表です。右にある累計の欄をご覧ください。紹介率は眼科 100.4%、放射線診断科 100%、循環器内科 92.6%、リウマチ膠原病内科 90.6%の順になっており、逆紹介率は、代謝内分泌科、腎臓内科、循環器内科の順になっています。

資料１－３をご覧ください。令和６年４月から６月の紹介元・逆紹介先医療機関一覧です。紹介元医療機関名と紹介患者数、そのうち予約検査数、前年度実績、前年度比を表しています。

紹介元医療機関は、やまもと内科クリニック、藤川整形外科、大木医院の順に多くなっています。逆紹介先医療機関は、やまもと内科クリニック・大木医院、藤川整形外科の順に多くなっています。前年度と比較して、紹介患者数が最も増加したのは２番の藤川整形外科の 20 人増で、続いて６番の高橋医院の 18 人増になっています。

資料１－４をご覧ください。令和６年度の予約検査の件数表です。CT・MRI については検査需要が高く推移しています。特に MRI は 29 件増加し、前年度比 113.4%となっています。

資料１－５をご覧ください。令和６年度月別相談延べ件数表です。相談対応は、看護師と社会福祉士が行っています。令和６年４月より妊婦小児に関して特定妊婦、要対協の項目を追加しています。これまでは虐待とその他に分類していたものです。特定妊婦は出産前において支援を行うことが特に必要と認められる妊婦であり、要対協は保護者の養育を支援することが特に必要と認められる要支援児童、保護者のない児童または保護者に監護させることが不適當であると認められる要保護児童に関する相談です。

４月から６月の相談対応延べ総数は 2,965 件で、前年度比 82.5%で減少傾向となっています。相談内容の多い項目としては、在宅退院に向けての退院相談が最も多く 854 件、次に転院に向けての退院相談が 556 件、次に社会福祉制度の相談が 470 件となっています。

対応方法は電話での相談対応が 899 件と最も多く、対面での相談件数は 804 件となっており、令和５年度と比較すると電話相談の割合が減少しています。令和６年１月に導入した退院支援システム Mix Jam Cloud の活用により、電話による転院相談、院内外の連絡調整件数が顕著に減少したことが考えられます。院外関係者とのカンファレンスは令和５年度より 4 件増加の 32 件となりました。資料１－６をご覧ください。令和６年度地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績です。６月までに 6 回開催しました。研修会や症例検討会、カンファレンス等を通し、顔の見える関係性と連携強化を図れるように、継続的に進めていきます。

資料１－７をご覧ください。令和６年４月から６月の登録医救急診察専用回線・循環器ホットラインの紹介についてです。対応件数は 163 件で前年度より 29 件増加しました。そのうち入院に繋がったケースは 74 件で昨年度と比較すると 9 件の増加しており、入院割合は 45%になりました。小児科への紹介が全体の半分を占めており、小児科の入院割合は 49%となりました。入電時間は午前 10 時から 11 時台にかけてピークがあり、午後は 16 時台が多くなっています。

○高山委員長

説明が終わりました。議題（１）について、委員の皆さんからのご意見、ご質問をお伺いしたいと

と思いますが、いかがでしょうか。

○高山委員

特に質問等ないので、議題 1 については終了したいと思いますがいかがでしょうか。

ご意見がないのでこれで終了とさせていただきたいと思います。続いて議題（2）のがん相談支援センターの事業実績について、事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（岡野看護師）

はい。がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師岡野です。よろしくお願いいたします。

それでは、がん相談支援センター令和 6 年度 4 月～6 月の業務実績についてご説明いたします。

資料 2 をご覧下さい。1 の相談件数は、3 ヶ月で延べ 473 件です。前年度より 160 件増加しました。

2 の支援方法は、対面相談が 367 件・電話相談が 106 件です。記載はないのですが、外部からの相談件数が 14 件でした。

3 の相談依頼ルートについては、医師からの依頼は 302 件、患者からが 75 件となっていますが正しくは 76 件です。次いで家族が 38 件、看護師より 20 件ありました。

医師からの依頼で多いのは治療方針の決定、患者家族の不安へのサポート、療養先の案内などの割合が多い状況でした。医師からの介入依頼で 1 人の患者さんに 20 回以上関わった方もいます。

例えば高齢で難聴、理解力も年相応の方や、咽頭がん術後で発声が出来ず筆談の方、最初から無治療希望の方などの方に関わってきたのですが、外来待ちの間に自宅での様子、心配ごと、質問などをお聞きし、外来時に医師へ伝えるサポートなどをし、外来後に医師からの説明を理解されていたかなどの聞き取り、フォローを行っていました。

看護師からの依頼は主に外来看護師からの依頼が多く、内容としては抗がん剤の副作用対策や外来でも相談出来る場所があると顔つなぎで依頼がある事もありました。全ての方に対して対応出来ることではないので、外来看護師等と情報交換しながら対応しています。

また、相談に来られなくとも関わりのある患者さんに関しては、外来受診時などに声を掛け、様子を伺うこともあります。その際に自宅での過ごし方などご相談される場合もあります。

次ページです。4 のがんの状況については初発が 326 件、再発・転移 122 件でした。

5 の治療状況においては治療前 120 件、治療中 186 件、治療後 48 件、緩和ケアのみ 53 件でした。

次に 6 の相談内容の内訳については、症状・副作用・後遺症などの相談が 343 件と一番多くなっています。次いで不安・精神的苦痛が 296 件、がんの治療について 219 件、がん治療の中でも薬物療法について 33 件でした。令和 6 年 4 月より相談記録が改訂され、相談内容が細分化され、がんの治療については薬物、手術、放射線治療と集計方法が変更となっています。

また、医師から療養先などの支援について介入依頼を受け、在宅医療 115 件、ホスピス・緩和ケア 63 件となっています。その場合、介護保険や在宅医療のご案内をする場合もあります。高齢の患者さんの場合、ご家族も同様に高齢である為、介護保険申請のご案内をするにも理解がうまく得られない場合もあり、子供さんがおられる場合は子供さんにも協力をお願いしています。最近はお子さんがおらず、ご夫婦だけの場合も多い印象です。患者さん、ご家族に承諾をとり包括支援センターへ情報提供し、協力を得る事もあります。

なお、これまで長期にわたり中止をしていました、がん患者サロンを 7 月より再開する事が出来ま

した。患者さん同士の気持ちを分かち合う場になっています。参加したご家族からは、患者さんとの接し方が分かった、来て良かったと言う声も聞かれました。

今後も引き続きがん相談支援センターの支援内容を知ってもらえる様に周知活動を続けていきたいと考えます。説明は以上になります。

○高山委員長

はい、説明が終わりました。議題（２）について、委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大木委員

はい。

○高山委員長

大木先生お願いします。

○大木委員

はい。令和５年度と令和６年度の相談件数が３ヶ月だけで１６０件も増えてるというのは、コロナ禍の影響で、コロナ禍が明けて令和６年になって多くのがん患者が発見されるようになって、外来受診をされるようになったという風に病院側が解釈しているのでしょうか。

●事務局（岡野看護師）

はい。ご質問ありがとうございます。この件に関しては、延べ件数でカウントしているので数字が多くなっています。

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

複数回相談している人が、今年の方が多いのことですかね。延べ件数でカウントしているということは。

●事務局（岡野看護師）

そうですね。４月から６月の間に多数回で関わってる方がかなりいるので、その分のカウントがされているというところで、少し件数が増えています。

○高山委員長

結局、患者さんの数としてはそれほど大きな違いはないということで理解してよろしいのでしょうか。

●事務局（岡野看護師）

はい。その様になります。

○高山委員長

大木先生、それでよろしいでしょうか。

○大木委員

はい、分かりました。

○高山委員長

その他、何かご質問等ございますでしょうか。

ではないようですので、議題（２）については終了したいと思いますがいかがでしょうか。

○高山委員長

では、異議ないようなので終了とさせていただきます。

続いて議題（３）救急搬送の状況について、事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（高橋医事課主査）

はい。続きまして救急搬送状況についてご説明をいたします。資料は資料３-１と資料３-２でございます。

それでは、資料３-１上段の表をご覧ください。こちらは、茅ヶ崎市消防の救急搬送件数を搬送先の医療機関ごとに月別で集計したものでございます。

表の右側、年度累計（当月まで）の欄をご覧ください。こちらは、令和６年度４月から６月までの実績合計と前年度（令和５年度）４月から６月の実績合計数を件数および割合で表したものです。茅ヶ崎市消防の全体搬送件数が前年度の３,８９０件から３,７３７件と１５３件減少しており、当院への搬送件数も前年度１,０８３件から１,０５９件へ２４件減少しております。しかしながら、当院に搬送される割合については前年度の２７.８％から今年度は２８.３％へと０.５ポイントと僅かですが増加しております。

茅ヶ崎市消防からの救急車受け入れについては、引き続き他の医療機関に比べ一番高い状況ではありますが、湘南藤沢徳洲会病院の減少分（前年度２７.５％が今年度２２.３％）５.２ポイントが湘南東部総合病院や茅ヶ崎中央病院に流れていっている印象があります。

次に下段の表をご覧ください。こちらは診療科別に救急車を受け入れた件数と、受け入れた患者のうち入院となった人数を表したものとなっております。こちらも表の右側、年度累計（当月まで）をご覧ください。

表の一番下にある入院率ですが今年度４月から６月までの各月の入院率の平均は３９.６％となっており、前年度の３４.８％から４.８ポイント増加しています。受入件数の前年度との比較につきましては、今年度１,１１４件と前年度の４月から６月が１,１２８件ですので１４件減少していますが、入院数は、今年度は４４１件と前年度の３９３件から４８件増加した結果が４.８ポイントの入院率増となっています。続きまして資料３-２をご覧ください。こちらは、茅ヶ崎市消防による市立病院への搬送件数と割合を地区別に分類したものでございます。資料の一番下、合計の欄をご覧ください。

４月から６月にかけて茅ヶ崎市消防から市立病院に搬送された割合が２８.３％となっており、その内訳を地区別で比較しています。

茅ヶ崎地区からの搬送が２４.０％、鶴嶺地区は２７.７％、松林地区が３４.０％、小出地区が２.９％、寒川

地区が 11.3%となっております。当院は行政地区としては茅ヶ崎地区となっておりますが、搬送される地区としては松林地区が最も多く、次いで鶴嶺地区となっています。茅ヶ崎地区は駅の南側が多いので、茅ヶ崎徳洲会や茅ヶ崎中央病院に搬送される割合が多いのではないかと考えております。資料 3 についての説明は以上となります。

○高山委員長

それでは、説明が終わりました。議題（3）について皆様からのご意見、ご質問等がございますでしょうか。

○高山委員長

去年より搬送件数自体は少し減少しているのですが、入院率が上がっているというのは、この資料で見るとどこ部分かはちょっと分からないのですが、色々と重症の患者さんを積極的に受け入れているということで考えてよろしいのでしょうか。

●事務局（高橋医事課主査）

そうですね。今までのところでありますと、内科の先生方が良く診ていただいているという風に考えております。院内でも、救急搬送された時には受け入れをお願いしているところでして、そこが浸透しているのかなと考えております。以上でございます。

○高山委員長

はい、ありがとうございます。他に何か委員の先生方からのご意見等ございませんでしょうか。

○高山委員長

では、特にご意見がないようなので、議題（3）については終了したいと思いますのですが、いかがでしょうか。では異議なしということで、議題（3）は以上をもちまして終了とさせていただきます。続いて議題（4）その他についてです。委員の皆様または事務局から何かございますでしょうか。

○大木委員

はい。

○高山委員長

大木先生、お願いします。

○大木委員

7月、8月、9月のことで、今回の会議は4月から6月のことについてなのですが、この時期はコロナも流行って、夏の時期に私も手術などで病院に入院依頼をかけることや誤嚥性肺炎やコロナの高齢者感染などが多かったのですが、病床がいっぱいということが結構多かった気がしました。受け入れてもらえなかったということはギリギリなかったのですが、その点どういう状況だったのか、コロナだけの影響ではないと思うのですが、病床がなかなか空かなかったという時期があったと思うのですが、どのような状況だったのか、少し説明をお願いいたします。

●事務局（藤浪病院長）

はい、では病院長の藤浪から説明させていただきます。7月、8月はですね、すごく入院患者さんが多く、嬉しいことなのですけども。特に多かったのが整形外科の手術が多く、先ほどの救急の資料を見ていただくと分かるのですが、救急車自体は去年より減っていたのですが、入院自体は整形外科で増えており満床になっていました。院内でも、かなり退院患者さんを早く退院できるよう案内をかけていたので、なかなか軽症では入院が難しい状況でありました。

例年は7月、8月でその様なことはないのですが、今年の7月、8月は本当に特別でした。9月に入って、残念ながらといいますか少し収まってきたので今は入院患者さんをいくらかでも受けられる状況になってしまいましたが、7月、8月は特別でコロナが多かったということでもなく、他のいろいろな疾患が多くて、特に手術の患者さんも多かったというのが実情です。以上です。

○高山委員長

その他、何かございますでしょうか。

特になければ、本日の議題はすべて終了いたしました。皆様のご協力ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第2回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了いたします。どうもお疲れ様でした。

●事務局（高橋医事課主査）

事務局から1つだけよろしいでしょうか。次回の第3回目の委員会につきましては、またメールなどでご連絡差し上げたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。以上でございます、ありがとうございました。